

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 2945 号	氏名	Nirina Adrien Jean Vivier Mandrano
論文審査担当者	主査 小林 一女 教授 副査 大塚 成人 教授 副査 田角 勝 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>口唇裂治療のゴールは、裂に伴う口唇鼻部の変形や位置異常を修復し、成長変化を含めて正常な形態や機能を獲得することである。口唇裂初回手術は全身麻酔下に頭垂位で行う。そのため術後の立位時に形態の変化を来す可能性がある。今回、両側口唇裂児の顔面軟部組織の形態計測を覚醒時座位と全身麻酔下手術時体位とで行い、両群間で比較検討した。</p> <p>2014 年 10 月から 2015 年 4 月までに当院で初回口唇鼻形成術を施行した両側口唇裂連続 28 症例のうち、3 症例を除外した 25 症例を対象とした。3D ハンディーカメラを用いて撮影し、その画像上に計測基準点 23 点を取り計測した。得られた値の比較には Wilcoxon 符号順位検定を用いた。</p> <p>口唇幅 (平均 3mm, $p < 0.01$) と裂幅 (平均 1.18mm, $p < 0.05$) では、手術時群で有意に広がったが、口唇の長さや高さ、外鼻部では両群間で有意差はなかった。</p> <p>体位による計測値の変化の主要因として、重力の影響と全身麻酔下での筋弛緩を考えている。このデータは両側口唇裂の手術に際し、口唇幅と裂幅は体位により変化するという点で有益な情報となり得ることが示唆された。この新知見は学術的に価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名 : Difference in nasolabial features between awake and asleep infants with bilateral cleft lip: Anthropometric measurements using three-dimensional stereophotogrammetry (3D カメラを用いた唇裂患者の顔面計測 : 両側唇裂初回手術における体位による顔貌の変化)</p> <p>掲載雑誌名 : European Journal of Plastic Surgery (DOI 10.1007/s00238-017-1343-6, 2017 年)</p>			

(主査が記載、500 字以内)